

徳 島

徳島拠点に国際協力活動

県民の理解と協力支えに

吉野川NGO「TICO」が30日、報告会

アフリカ南部のザンビアやカンボジアを中心に、保健医療・農村開発の分野で支援活動を行う国際協力NGO「TICO」(ティコ)トクシマ・インターナショナル・コーポレーション(吉野川市山川町)が30日、活動報告会を行った。報告会を前にスタッフの話を聞くと、活動の裏に多くの県民の理解と協力が垣間見え、徳島と世界のつながりを感ずることができた。

【深尾昭寛】

TICOは93年に発 挑んでいる。足。ザンビア、カンボジアでの救急救命シス(49)は「こうした活動テム運用支援などのほを徳島の人が支えか、サハラ砂漠以南のてくれている」と指摘大干ばつ(09年)を教する。例えば美馬市木訓に、水・食料の確保、屋平では、ユス畑の収医療・教育環境の整備 穫で上がる収益が、活を通して、干ばつに強 動に寄付されている。い村を作る取り組みに また98年に住民がザンビアを訪ね、現地で水道を整備した。「木屋平ではかつて、住民が自分たちで水道を引いていた。それがザンビアで生きたというのが面白いですよね」と福土さんは話す。



とくしま



森山小の子どもたちはザンビアに関するクイズをつくり、同国への理解を深めている＝TICO提供

多江さん(22)と瀬戸口千佳さん(26)は、「地域の小学校と、私たちの活動が結びついていってほしい。国際協力という、すごく特別に思われがちだが、もっと身近に感じてもらえれば」と目を輝かせる。

管理栄養士の井形和枝さん(31)はNGOスタッフや青年海外協力隊員として、ザンビアで1年、ニシエールで2年活動した。食生活や衛生の指導がメイン。生まれた時に体格

がよくても、離乳食の時期に入ると食生活の貧しさから成長が鈍る。担当した中には1歳を迎えず亡くなった子もいた。少しでも栄養について学んでもらおうと、カルタやすごろくのようなゲーム感覚で学べる教材を工夫して作ったりもした。

活動中、「自分は生まれた土地に何が出来るのだろうか」と改めて考えさせられた。例えば、徳島は糖尿病による死亡率が非常に高いという問題がある。地域に入り、何かやれないいな、やらないといけないなと思うた」という。

NGOでは、「地球温暖化などの環境問題を抱える今、持続可能な循環型社会への転換が必要」と提唱している。国内活動として、

国際協力に興味のある学生らを対象に合宿を行うが、その際の農作業体験で用いる山川町の有機農園も実践の一つだ。TICO代表の吉田修さん(51)は、「僕たちの活動は遠くアフリカの活動と見られるが、そうではなく、地球全体のため、そこをもっと多くの人にうまく伝えられたらな」と考える日々です」と話。

◇ 報告会には吉野川市山川町の「さくら診療所」で30日午後7時から報告者はカンボジア事務所で保健医療専門家を務める古家聖子さんで「国際協力初心者のカンボジア体験記」をテーマに話す。予約不要、参加費無料。問い合わせはTICO事務局(0883・42・2671)。